

【岩手県普代村】

校務DX計画

1. 校務DX化の現状及び成果

本村では、令和6年度に統合型校務支援システムの導入を行い、校務DX化を推進するための環境改善が進んだ。

また、「普代村教育情報セキュリティポリシー」を策定し、クラウドサービスの利用方法方法や、学校が保有する情報資産の分類について体系化し、効率的に運用をするための準備を進める予定。

2. 校務DXを推進するための課題解決策

・職員会議等で使用する資料のペーパーレス化

職員会議の資料をデータで配布し、資料の印刷や配布に係る時間等を削減する。同じデータを共有することで各自でのファイリングが不要となり、端末があれば、場所を問わず必要な時に参照できる。

・FAXや押印の廃止など、校務手続きの見直し

学校と教育委員会間でのFAXや押印をなくし、電子上で完結するように仕組みを見直す。

・名簿情報の不必要的手入力作業をなくす

校務支援システムへの名簿等情報の入力時において、「紙からの転記」「二重登録」の不必要的手入力作業がないか点検し、各種データ連携を実施する。

・クラウド環境の利活用

クラウドサービスを活用し、学校と教育委員会間での文書の回覧やデータでの書類提出をスムーズに行うことができる体制をつくる。

3. 校務DX化の今後の計画

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）を目指し、岩手県及び県内の市町村教育委員会等とも連携しながら、検討を深める。